



2025年 8月21日
第30号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



横地申
第1号

「職場実態と本人のキャリアプランを無視した不当転勤を許さず、安全で安心して働ける職場を求める」申し入れを8月20日に行う！

JR東労組横浜地本は2025年7月6日に、「かながわ労働プラザ」において第30回定期大会を開催し、向こう一年間の方針について満場一致で確認しました。多くの代議員から、「変革2027」に基づいた会社施策と要員不足に起因する悲痛な職場実態が発言されました。キャリアプランに基づかない人事異動により心身の不調を来したり、納得感のない異動懇話に対して、多くの代議員から怒りの発言がありました。

特に鎌倉車両センターに所属していた大船支部執行委員長に対する異動の懇話について、JR東労組横浜地本は、不適切かつ不当な異動であると認識しています。副所長が屋外での立ち話的な意識付けの際に「割ピンを割るのが早いから、若い子に教えてほしい」と言いながらも異動先の班では割ピンを使用する作業はなく、異動させるための場当たりの理由と思わざるを得ません。また、意識付けの会話の中で、中原支所への異動については「中原へ行っても何もステップアップしない」、国府津車両センターへ家庭事情で異動した組合員については「国府津に行ってもらって助かった」と、職場で奮闘する組合員・社員を軽視する発言があり、会社に対する不信感は増すばかりです。

各車両センターではこの間、首都圏本部から提案される様々な会社施策について、常に真摯に向き合ってきました。「変革2027」の実現に向けて「組織の再編」や「業務執行体制の見直しについて」、「駅派出検査体制等の見直しについて」などに真面目に向き合い、環境変化に戸惑いながらもお客さまと社員の安全を第一に考えながら担ってきました。

しかしここ数年で、ベテラン層と中堅の定年退職と若年退職、そして転出が相次ぎ、その結果として要員不足から車両の臨時修繕作業に優先順位をつけて行わざるをえない状況が発生しています。さらに臨時修繕作業における技術継承についても大きな懸念があります。車体上げ作業や機器吊り替え作業など、頻度は低いながらも安全に作業するためのノウハウが重要となる場面で、指導や采配をすることができる人材が極めて少なくなっています。技術力を職場総体やグループ会社に内在させるといながらも、技術力の要となる社員を、支社エリアも作業内容も全く異なる職場へ異動させることは、作業の安全の低下と車両の品質低下にもつながりかねません。

私たちJR東労組横浜地本は大会発言と現場の声を受け、安全を基軸として技術継承を永続し、社員が不安なく働ける職場を実現するため、下記の通り首都圏本部に申し入れを行いました。

1. 「割ピンを割るのが早い」という異動の懇話を行ったにも関わらず、割ピンを使用しない職場へ異動となった経緯について示すこと。
2. 「中原に行っても何もステップアップしない」、「国府津に行ってもらって助かった」という、他職場を軽視した発言の意図について明らかにすること。
3. 当日の臨時検査班の出面不足により、修繕を未施工のままで車両を出区させざるをえない実態について会社としての認識を示すこと。
4. 車両センターにおける臨時修繕作業の技術継承について、異動により職場としての安全や技術力の低下が起こらないよう、コア人材の育成を図ること。
5. 本人のキャリアプランと家庭状況等を無視した納得感の無い異動を行わないこと。

職場実態と本人のキャリアプランを無視して納得感なく行われる不当転勤を許さず、お客さまが安心して乗車できる安全な車両を提供するために、技術継承を永続し、高い技術力をさらに向上させ、安全で安心して働ける職場を私たちの手で創造しよう！